

< 海外情勢 >

「米朝シンガポール会談の成功」

藤井 巖 喜 < 国際政治学者 >

米国と北朝鮮のシンガポール会談は、6月11日のレポートで予測したように、本格的な朝鮮半島の非核化に向けて確実な第一歩を踏み出した。

その点で、アメリカ側から見れば80%の成功と見る事ができるだろう。

世間では、「米朝首脳会談は失敗した」あるいは「トランプは金正恩にはぐらかされて具体的な成果を生み出せなかった」「勝ったのは習近平」などという俗説が流布されている。しかし米朝会談が終了して2週間近く経ったが、その後の情勢をフォローしてもアメリカ側が周到に準備したシナリオに、北朝鮮側が力づくで従わされたという結果になっている。

米朝共同文書への調印は、金正恩からすれば降伏文書への署名に等しい。しかし世界にそう見えてしまえば金正恩の面子が丸つぶれになるので、トランプは万全の配慮をして金正恩の面子を立てたのである。いわば、アメリカは「名を捨てて実をとった」と言えるだろう。勿論、金正恩は朝鮮外交得意の引き延ばし策（遷延策）で、アメリカの圧力を逃れようともがいている。

一方、面子を丸つぶれにされた習近平は、何とかその面子を回復しようと金正恩を再び北京に呼び寄せ（6月19日～20日）、中朝首脳会談を開催した。金正恩は共同宣言に書いた以上の妥協をアメリカ側に約束したはずだが、勿論そんなことは習近平には告げず、チャイナの皇帝様のメンツを立てることに終始したと思われる。

▼ 今後の朝鮮半島情勢のシナリオは次の3つである。

1) アメリカの圧力に北朝鮮が屈服し、核廃棄を進める可能性 = 60%

金正恩は自分の命と金王朝体制のサバイバルの為に取敢えず北朝鮮の核兵器の放棄を受け入れざるを得ない。抵抗しながらもその方向に動く確立が60%である。うまくいけば2018年後半に事実上、米軍が北朝鮮に入り、核兵器の国外搬出の準備を始めるだろう。

2) 引き延ばし策で膠着状態が続く可能性 = 30%

ただしこの場合、北朝鮮は経済制裁で益々苦しくなってゆく。アメリカは経済制裁を更に一段、二段と強化しながら北朝鮮のジリ貧を待つ。チャイナが陰で助けても北朝鮮が大きく救われることはない。我慢比べはアメリカの勝ちである。

3) 北朝鮮が共同宣言を破棄し、再び核開発に向かう可能性 = 10%

北朝鮮が共同宣言を完全に無視して核やICBMの開発を再開すれば、アメリカは確実に北朝鮮に攻撃を仕掛けるだろう。核実験やICBMの水平方向への発射実験を行なえば、アメリカはこれを「レッドラインを超えたもの」とみなし、全面的な先制攻撃を仕掛けるに違いない。

共同文書にサインしたにも関わらず、その約束を破ったということでアメリカは先制攻撃をする正統性を手に入れるのである。共同文書へのサインはこの意味で、アメリカ側が巧みに仕掛けた罠であった。

アメリカの圧力で9月以降、日朝会談も開始されるだろう。